

中国株ウィークリーレポート

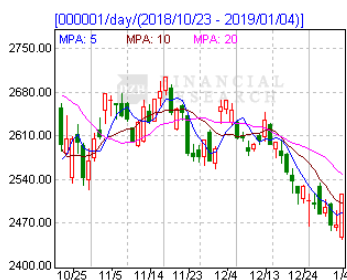
2019/1/7

【指数日足チャート】

▼ハンセン指数



▼上海総合指数



【主要株価指数】

	週末終値	前日比	変化率 (%)	週間騰落率 (%)	年初来騰落率 (%)	18年末株価
NYダウ	23,433.16	746.94	3.29	1.61	0.45	23,327.46
NASDAQ	6,738.86	275.36	4.26	2.34	1.56	6,635.28
日経225	19,561.96	-452.81	-2.26	-2.26	-2.26	20,014.77
上海総合	2,514.87	50.51	2.05	0.84	0.84	2,493.90
滬深300 (CSI300)	3,035.87	71.03	2.40	0.84	0.84	3,010.65
ハンセン	25,626.03	561.67	2.24	0.48	-0.85	25,845.70
中国企業	10,029.65	194.20	1.97	0.37	-0.94	10,124.75

【株式概況】

先週の動き:ハンセン指数は0.5%高と3週ぶりに反発、上海総合指数は0.8%高

香港市場は正月の休場で3日半の取引。ハンセン指数は週間で0.5%高と3週ぶりに反発した。半日立ち会いの12月31日は上昇したものの、中国の景況感の悪化やアップルの業績予想の下方修正を受けて投資家心理が悪化。3日には一時25000ポイント割れの水準まで売り込まれた。ただ、週末4日には米中通商交渉の進展や中国の金融緩和への期待が高まったことで3日ぶりに大幅反発となった。本土市場では上海総合指数が4週ぶりに反発。米中摩擦の懸念後退や景気刺激策発表への期待で週末に持ち直す展開となった。

今週の展望:香港市場は戻りを試す展開か、米中で景気に配慮した動きが顕在化

香港市場は戻りを試す展開か。米中対立の激化による世界経済の先行き懸念はくすぶるものの、米中で景気に配慮した動きが出てきたことが好材料。パウエルFRB議長が状況次第で利上げを停止する可能性を示唆したほか、中国人民銀行は預金準備率の引き下げを発表。7-8日には米中の次官級貿易協議も予定されており、米中の緊張緩和に向けた期待も高まりやすい。本土市場も強含みの展開か。週内に発表される経済指標が弱い内容だったとしても逆に景気対策への期待が高まりやすく、下値不安は小さいと思われる。

先週のハンセン騰落ランキング

▼騰落率上位

	週末終値 (HK\$)	騰落率 (%)
1 信和置業(00083)	14.28	7.53
2 新鴻基地産(00016)	117.40	6.53
3 恒基兆業地産(00012)	40.65	5.45
4 中国旺旺(00151)	5.70	5.17
5 シパック(00386)	5.64	4.25
6 ファイナモバイル(00941)	76.80	3.92
7 長江実業地産(01113)	58.85	3.70
8 新世界発展(00017)	10.68	3.29
9 Link REIT(00823)	80.95	2.60
10 ファイナコム(00762)	8.32	2.34

▼騰落率下位

	週末終値 (HK\$)	騰落率 (%)
1 吉利汽車(00175)	11.88	-12.78
2 舜宇光学科技(02382)	61.50	-10.61
3 瑞声科技(02018)	40.75	-8.22
4 ハンセン銀行(00011)	167.80	-3.73
5 中銀香港(02388)	28.10	-2.60
6 中国平安保険(02318)	67.15	-1.90
7 中国蒙牛乳業(02319)	23.45	-1.68
8 九龍倉置業地産(01997)	45.95	-1.39
9 中国生物製薬(01177)	5.02	-1.38
10 石業集団(01093)	11.08	-1.25

▼今週の主なイベント

- 1月7日(月)
- 【中国】米中次官級貿易協議(~8日)
- 1月8日(火)
- 【中国】貿易統計(12月)
- 1月9日(水)
- 【中国】CPI, PPI(12月)

▼今週の期待材料

- ◆パウエル FRB 議長が金融政策を柔軟に見直す考えを表明、状況次第で利上げ打ち止めの可能性を示唆
- ◆中国人民銀行が預金準備率の引き下げを発表、15日と25日に0.5ポイントずつ引き下げ
- ◆米中の次官級協議を7-8日に開催、米中貿易問題の解決に向け交渉の進展に期待が高まる公算

▼今週の懸念材料

- ◆中国の12月の製造業PMIが市場予想を下回る49.4に低下、50を割り込み16年2月以来の水準まで悪化
- ◆米アップルが業績予想を下方修正、米中貿易摩擦の長期化で企業業績や世界経済の先行きに警戒感
- ◆中国で拘束されたカナダ人が昨年12月の華為ショック以降で計13人に、中国とカナダの緊張関係続く

【今週の材料銘柄】 ☆…ポジティブ ★…ネガティブ ◇…中立

- ☆ 石業集団 (01093) : 創薬会社の杭州英創医薬科技と提携、抗がん剤を共同開発
- ☆ 小米集団 (01810) : TCL 集団の株式0.48%を取得、TCL との戦略関係を強化
- ☆ 中国広核電力 (01816) : 18年の電力販売量が14%増加、1-9月から伸び率加速
- ☆ 碧桂園 (02007) : 18年の不動産販売額が31%増加、販売面積は23%増
- ☆ 広州汽車集団 (02238) : 12月の新車販売台数が5%増加、18年は通期で5%増
- ☆ 中国アルミ (02600) : 筆頭株主が株式買い増し、持ち株比率が36.62%に上昇
- ★ シノペック (00386) : 子会社のヘッジ取引で財務データに異常が見つかったと発表
- ★ 中遠海運国際 (00517) : サプライヤーが清算申し立て、売り上げ大幅減の見通し
- ★ 北京首都国際機場 (00694) : 北京新空港が9月末までに開港、利用客分散懸念高まる
- ★ 融創中国 (01918) : 12月の不動産販売額が成約ベースで31%減少

本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります。また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則平 14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。